

AI特化の半導体チップ EdgeCortix、29億円調達

2023/10/04 02:00 日本経済新聞電子版 549文字

半導体チップの設計・開発を手掛ける EdgeCortix（エッジコーティックス、東京・中央）は2024年に、人工知能（AI）の演算処理に特化した新製品を日本や北米で発売する。量産に充てるため、ベンチャーキャピタル（VC）のSBIインベストメントなど5社を引受先とする第三者割当増資で2000万ドル（約29億8000万円）を調達した。

半導体チップは電子基板に組み込む中核部品だ。AIが高度な映像処理をする際などに機器が発熱するのを防ぐため、消費電力抑制と高速演算を両立することが求められている。

エッジコーティックスの新製品は独自の設計により、稼働時の消費電力を10ワット以下に抑え、1秒間に約40兆回の演算をできるようにする。一般的な競合品に比べ、消費電力あたりの演算能力を10倍に高める。「半導体大手に量産を委託し、販売に向けた供給体制を整えていく」（サキャシング・ダスグプタ最高経営責任者=CEO）という。

価格は競合品と同程度で、チップのサイズは小さくする見込み。処理性能やエネルギー効率を向上させ、最終製品の低コスト化や小型化につなげる。国内外の電機メーカーや自動車メーカーなどに売り込む。

第三者割当増資はほかにグローバル・ハンズオンVCやMonozukuri Venturesなどが引き受けた。



一般的な競合品に比べ、消費電力あたりの演算速度を10倍に高める（EdgeCortixの半導体チップ）

許諾番号30095582 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.